

ご挨拶

加賀美常美代

このたび異文化間教育学会の理事長を拝命いたしました加賀美常美代です。異文化間教育学会には、20 数年前に異文化間心理学の草分けである元理事長の星野命先生のご紹介で入会させていただきました。ここ数年は常任理事、広報・情報化委員長として学会の広報活動の推進に努めてまいりました。

さて、異文化間教育学会は1981年に設立され、30 数年が過ぎましたが、この間、紀要発行をはじめとしウェブによる広報情報提供など様々な活動を行い、多くの研究成果を蓄積し発信してきました。しかしながら、急速にグローバル化が進行し、文化的移動も頻繁になり、さらにはインターネットが普及した社会情勢の中で、文化移行に伴う個と環境の扱い方も変化し、複数の文化的背景をもつ家族、子どもたちのアイデンティティも多様化・複雑化しています。従来、異文化間教育の研究課題であったはずの問題も、ほかの学会や学問領域でも関心が持たれるようになり、その独自性も揺らいできました。一方、研究分野も広がりを見せ、文化を超えた、広義での多様性を考える視点も必要となってきました。また、地域社会や学校における教育現場では、文化移動した人々や家族、子どもたちなどの抱える問題が深刻さを増し、社会的問題への解決にも学会として方向性を示す必要も出てきました。

こうした状況のもとで、今、これまでの異文化間教育の学術成果を整理し、社会への発信力をさらに高め、社会的課題の解決に貢献することが学会として求められる大きな使命の一つだと考えております。その実現のため推進したいことの一つは、元理事長の佐藤郡衛先生を編集長とした『異文化間教育学大系』の発刊で、できるだけ早く発刊できるように実働していきたいと思っております。二つ目は前理事長の横田雅弘先生の発案による4学会連携事業研修会をさらに充実させ発展させていくことです。関係される他学会の諸先生方と相談しつつ継続し、隣接分野の学術的交流もより充実したものとしていきたいと考えております。

学会のもう一つの大きな使命は、次世代を担う若手研究者の支援・育成を推進することであると思っております。異文化間教育を専門とする学生会員への支援や研究者養成は不可欠であり、これまで以上に多様な支援の形を模索し次世代研究者育成に務め、学会の学術的発展の基盤をゆるぎないものにしていきたいと考えております。微力ではございますが、会員の皆様からのご協力なくしては実現が不可能ですので、どうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。